

徒然想

「ろれつが回らない」とは、酒に酔ったりして舌がうまく動かず、言葉がはっきりしないという意味です。その語源は、中国から伝わった雅楽の言葉「りよりつ」。漢字では「呂律」と書きます。「りよりつ」は「言葉の調子」を意味し、「呂(りよ)」と「律(りつ)」という音階が合わないことを「呂律が回らない」と言ったことから、一般にも広まり「言葉がはっきりしないこと」を意味するようになったようです。ちなみに音楽の三要素は、「リズム」、「メロディ」、「ハーモニー」。それらが、うまく調和してはじめて「MUSIC」になります。世界は、日本の政治家にメロディやハーモニーを感じたのでしょうか。とにかく、まずはすべてを支えるリズムを早く安定させてほしいと願います。

TECHNICAL TOPICS KRCの技術情報はこちら

マサ土採取装置 MAS-08 のご紹介

地盤の強度試験の精度を向上させるには、乱さない試料の採取が必要です。

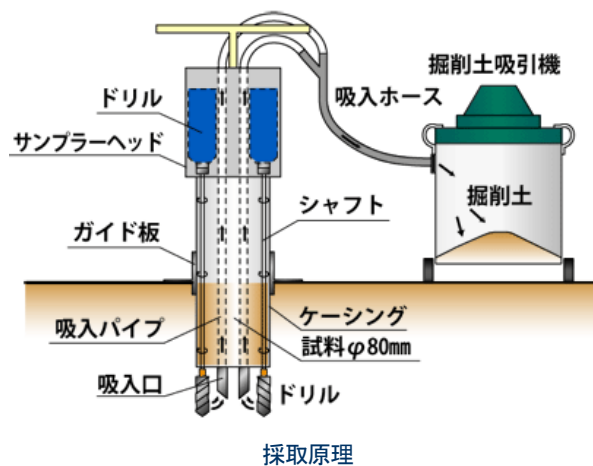
当社のマサ土採取装置 MAS-08 は、2軸ドリル削孔・吸引排土方式で試料形成をするので、試料が乱れないのが特長です。

右図に示すように、まず、サンプラーヘッドに内装されたドリルの回転が、ケーシングのシャフトを介して、先端のドリル刃に伝達されます。ドリル刃によって地盤に小孔を掘り、これを連続させて円柱状(φ80mm)のコアが形成されます。小孔は数cmの深さで局所的に作られていきますので、振動や圧入によって試料が乱れることはありません。

また、削孔によって生ずる土粉は、次の削孔を妨げるばかりでなく、排土しないと試料が乱れます。そこで、本器では、空気の吸引力を利用し、削孔と平行して排土が行われるように工夫されています。掘削土は、ドリル近傍にある吸入口から入り、ケーシング中の吸入パイプ、吸入ホースを経て、地上の掘削土吸引装置に到達します。

さらに、ケーシングの建込みは、地表面に設置したガイド板に挿入することにより、地表面に直角にケーシングが掘進できるようにしてあります。これにより、ケーシングのぶれによる試料の乱れも防止することができます。

このように、本器では、乱さない試料採取のため様々な工夫をしています。さらに、装置がコンパクトなため、少人数で作業を行うことが可能です。試料採取の際には、ぜひご活用ください。



採取原理



採取状況



試料 (φ80mm)



試料 (φ80mm)

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせは、

電子メール: krc@krcnet.co.jp

ホームページ: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm> で承っております。